

九州ハンドボール協会 主催大会における緊急時の対応について

九州ハンドボール協会

1 緊急事案

競技会場，その周辺等において，以下の緊急事案・疾病等が発生した場合，現場において迅速かつ適切に対応するとともに，競技会主管県協会が大会本部（九州ハンドボール協会）に連絡する。

- (1) 災害（大雨・落雷・暴風・積雪・地震・噴火等）
- (2) 競技会関係者の交通事故，人身事故，重篤な疾病等
- (3) 病院搬送事案（事故・傷害・食中毒・熱中症等）
- (4) その他

2 競技会の中止・中断等の協議

緊急事案（上記1－（1）等）が発生した場合，競技会実施本部（九州ハンドボール協会・開催県ハンドボール協会・開催市町ハンドボール協会）は，競技会の中止・一時中断・順延・入場者の制限・避難などについて対応を協議する。

(1) 情報収集

競技会実施本部は，協議のための情報収集を行う。

- 気象状況
- 地震・津波・噴火等の状況
- 感染症等の情報
- 事故の状況
- 競技会場の状況

(2) 競技会実施の最終判断

競技会当日，午後2時を目安とする段階で大雨警報・暴風警報・避難勧告・避難指示などが解除されていない場合は，それ以降に解除されたとしても，その日の競技会は，原則として，延期・中止する。

3 競技会実施の変更

緊急事案（上記1（1）～（4）等）が発生し，上記2の協議を経て，以下の変更等で対応可能な場合は，競技会を実施する。

- 競技日程
- 競技開始時刻
- 競技時間
- 役員配置
- 補助員配置

遅延・中断・再開等の場合も含めて，競技会の終了時刻は，午後8時までとし，役員
の業務終了時刻（会場での解散時刻）を午後9時とする。

4 予定された競技日程で試合消化ができない場合の九州ブロック代表権の取り扱い

- (1) 九州ブロック代表権が決まり，代表順位を決める場合は抽選を行う。
- (2) 九州ブロック代表権が決まっていない場合は，代替日・代替地等を検討する。
代替日・代替地等の設定が困難な場合は，該当チームによる抽選を行う。

5 過去の変更例

【2017年度 9月 日本選手権予選（大分大会）】

台風が日中に大分市内を通過する予報だったことから、参加全チームに8時30分までの体育館到着を呼びかけた。台風通過中、屋外の風雨は強かったものの、体育館内では、試合を予定通り消化した。体育館施設側とは、試合中の停電に備え、事前に非常電源の確保と電灯の復旧時間も確認していた。

試合が早く終わったチームには、即座に帰着せず、台風の影響がおさまるまで体育館内に常駐することを指示した。競技会場の体育館は、行政が指定する防災避難所だったことから、暴風雨圏外時に移動、暴風雨圏内時に体育館内で試合という対応だった。

【2018年度 10月 JOC大会（福岡大会）】

台風が早朝から福岡市に上陸し、午前中は暴風圏内の予報だったことから、警報が解除されるまで外出禁止とし、初日の第1試合を16時30分～、第2試合を18時00分～とした。予定していた福岡市内の補助員生徒は、教育委員会から部活動及び外出の禁止（自粛）措置が発令されていたので、補助業務は試合のない参加チームの選手に要請し、試合運営を行った。

初日に消化できなかった試合を翌日に行うために、競技第2日のタイムテーブルも変更した。

6 その他の留意点

（1）役員配置・補助員配置

予定している補助員生徒の所属する中学校や管轄する教育委員会などが、部活動及び外出の禁止（自粛）措置を出した場合は、補助員生徒の動員・配置なしで大会運営を行う。

その際、オフィシャル補助員の業務は、TDやMOが兼務で担当する。コート補助員の業務（モップ係・得点係）は、大会本部が示す動員計画に基づき、各参加チームに依頼する。

全競技役員・全参加チームの協力体制で大会運営を行う。

（2）連絡体制

開催県ハンドボール協会の運営・事務責任者から、各チーム責任者にメール及び携帯電話で随時連絡を行うので、各チーム責任者は、確認できる電波受信環境であることを意識しながら行動し、大会本部からの連絡を各選手・応援者と即座に共有できるようチーム内で連絡体制を整備・確認しておくこと。